

令和5年度 府中市立府中第七中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書き能力の向上。 段落や場面、連ごとの的確な内容理解の向上。 自分の思いや考えを積極的に発信する能力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習進度に応じて、漢字の解き直しに取り組ませる。 授業内容を、レポート作成で提出させ内容理解を深める。 ICT 機器を活用し、自分の思いや考えを即時的に発信できる場面を増やす。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能の定着（特に正負の数の計算の定着） 筋道を自分で考え表現するような問題に取り組もうとする力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 章末ごとに知識・技能の確認を行い、各々の習熟状況を確認できるようにする。 授業中に、どのように問題を解いていくか自分で考える時間を設ける、またその考えを他の生徒に伝える機会を設け表現する力を育てる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象に進んで関わる態度を育成する。 観察・実験の技能の向上。 基礎的、基本的な知識の定着。 観察や実験の考察などの場面で思考力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な現象などを扱い、興味をもてるようにする。 観察・実験の機会を多くつくり、基本的な器具の使用や実験技術を身に付ける。 小テスト等の実施により、知識の定着度を確認することができるようにする。 考察では段階的な設問にするなどして思考力の向上を進める。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識・技能の向上。 社会的事象を多面的・多角的にとらえる力の向上。 価値観の異なる他者とのように関わっていけばよいか、また、目まぐるしく変化する社会の動きに関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習進度に応じた教材を提示するとともに、家庭での自主学習で問題の解き直しに粘り強く取り組ませる。 レポート作成などを通じて、社会科的な見方、考え方の視点を身に付けさせる。 ニュース発表を毎時間行い相互に評価を行う。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識・技能の定着。 思いや意図をもって表現する力の向上。 根拠のある自分の意見をしっかりとち、発言できる力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間記入する振り返りシートで生徒の学習状況を把握し、必要に応じて、前時の復習の時間を取る。 歌唱表現に関わる知識と曲に対するイメージを関連付けて、グループで表現方法について試行錯誤しながら意見交流していく。 言語技術の育成を図り、自分の意見を発表する場を多く設定する。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の向上。 感性や創造力を働かせ、豊かに発想したイメージを色彩と形で表現する能力の向上。 題材に興味関心を持ち、主体的に理解し、自分らしい表現に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 段階的に基礎的知識・技能を身に付けられるように制作工程を細分化する。 対象や事象をとらえる造形的視点の理解について、ICT教材の活用や、参考資料を多く用意して提示する。 制作工程を細分化した板書とパネル提示で、流れを理解し主体的に取り組めるようにする。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能の向上。 身の回りの技術に関心を持たせる。 自分で問題を見出して課題を設定し、自ら学び主体的に判断しようとする力の向上。 材料に適した加工法を身につけ、丁寧な製作品を完成させる力の向上。 情報処理の基礎や情報モラルの向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 各領域の要点をまとめたプリントでノートを完成させ、学んだことの振り返りがしやすいように工夫する。 身の回りで使われている技術を取り上げ、関心をもたせる。また、木工具の使い方を身に付けさせる。 各領域で学んだ基礎知識を生かして、作品を完成させ達成感と興味関心を身に付けさせる。 ICT 教材の活用で情報処理の基礎と情報モラルを身に付けさせる。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学習姿勢の向上。 主体的に学ぼうとする意識の向上。 食生活や衣生活の知識技術を向上させる。 家庭によって、生活のしかたや考え方は様々であることを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント等をこまめに回収し、板書内容を書きとれているか、メモなどを書き込んでいるかなどを評価し、その次の授業で講評をし、改善させていく。 家庭で取り組む宿題などを出し、調理やアイロンがけなどをさせ、工夫や気づきを書かせる。 自分の生活のしかたや、考え方を授業の中で発表する機会を設ける。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 体の動かし方の基礎知識の向上。 主体的に学ぼうとする態度の醸成。 保健分野との関連付け。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間記入する学習カードで知識の定着を図る。 学習環境を生徒自身に作らせ、安全面からの活動を意識させていく。 呼吸器などの発達を例に挙げ、単元の活動中に意識できるように声掛けを行う。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本的な単語、文法事項の徹底。 会話活動において使える語彙を増やす。 英語らしい発音や抑揚を身につける。 基本的な文章を何度も読み、まとまった表現を覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日半ページの単語を書く課題を出し、基本的な単語を書けるようにする。 帯活動で話す活動を週に一度行い、相槌やリアクションを学ぶ。 part が終わるごとに音読チェックを行う。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない

令和5年度 府中市立府中第七中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・心情や抽象的な概念を表す語句の量を増やす。 ・的確に内容理解する能力の向上。 ・自分の思いや考えを表現する能力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材ごとに理解すべき語句を提示し、確認させる。 ・判断する手がかりとなる語句等に注目させる。 ・互いに気づきや疑問、考えを交流し、そこから考えたことをまとめさせる。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着 ・筋道を自分で考え表現するような問題に取り組もうとする力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに知識・技能の確認を行い、各々の習熟状況を各自で振り返り、確認できるようにする。また、確認テストを実施し定着の強化を図る。 ・授業では、どのように問題を解いていくのか、その過程を自分で考える時間を確保する。またその考えを他の生徒に開示・再考する機会を設け、深い学びにつなげる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象を科学的に探究する力を養う。 ・観察・実験の技能の向上。 ・基礎的、基本的な知識の定着。 ・観察や実験の考察などの場面で思考力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末などに実験計画を立てるなどの活動を行う。 ・観察・実験の機会を多くつくり、基本的な器具の使用や実験技術を身に付ける。 ・小テスト等の実施により、知識の定着度を確認することができるようにする。 ・考察では段階的な設問にするなどして思考力の向上を進める。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能の向上。 ・社会的事象を多面的・多角的にとらえ、課題を追求しようとする力の向上。 ・価値観の異なる他者とどのように関わっていけばよいか、また、目まぐるしく変化する社会の動きに関心を高め、国際社会に生きる社会の形成者としての資質を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習進度に応じた教材を示すとともに、家庭での自主学習を促進するような課題を提示する。 ・資料を読み取る様々な活動を通じて、社会科的な見方、考え方の視点を身に付けさせる。 ・ニュース発表を毎時間行い相互に評価を行う。 ・400字程度で自分の考えをまとめ、新聞投稿に挑戦させる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能の定着。 ・音楽に対する感性の育成。 ・曲や演奏に対する批評とその根拠を発表する能力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間に記入する振り返りシートで、学習状況の把握し、定期的に小テストを行い、定着を図る。 ・音楽を聴いて感じた思いを言語化し、様々な音楽の見方・考え方があることを共有する授業にする。 ・根拠をもって、音楽に対する批評を発表したり、文章にすることを身に付けさせる。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能の向上。 ・意図に応じて自分の表現方法を工夫し心豊かに表現する構想を練る力の育成。 ・題材に興味関心を持ち、主体的に理解し、自分らしい表現に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的知識・技能を身に付けられるように制作工程を段階的に細分化する。 ・制作意図を身近なもの結び付けながら自分の表現方法に自信がもてるよう段階的に確認する。 ・生活の中にある自然物や人工物に目を向け色彩や造形の美しさを感じ取り、課題への興味関心を高める。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の向上。 ・身の回りの技術に関心を持たせる。 ・自分で問題を見出して課題を設定し、自ら学び主体的に判断しようとする力の向上。 ・材料に適した加工法を身につけ、丁寧な製作品を完成させる力の向上。 ・情報処理（ソフトウェアの活用）の基礎の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域の要点をまとめたプリントでノートを完成させ、学んだことの振り返りがしやすいように工夫する。 ・家庭で使われているエネルギー変換技術を取り上げ、観察させることで関心をもたせる。 ・各領域で学んだ基礎知識を生かして、作品を完成させ達成感と興味関心を身に付けさせる。 ・ICT教材の活用でリンク装置など動きの仕組みや情報処理の技能を身に付けさせる。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の基礎を学び、生活をよりよくする意識の向上。 ・衣服の選び方や管理の方法を学び、生活をよりよくする意識の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材に応じて、実生活につながる例や、生徒の考え方を発表させるなど、より具体的にイメージさせたり、見本を提示したりするなどして、実践に結び付く授業を心がける。 ・調理や洗濯などに、家庭で取り組む宿題を設け、知識を実践へと結びつける。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動量の確保。 ・主体的に体を動かそうとする意識の醸成。 ・運動能力の二極化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間導入の場面で、単元ごとに動きを変えた補強運動を実施する。 ・安全な学習環境を生徒自身に考えさせ、運動を実施していく。 ・苦手な生徒への個別メニューと活動場所の提示。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・会話活動において使える語彙を増やす。 ・英語らしい発音や抑揚を身につける。 ・文法の構造を理解し、適切に使えるようにする。 ・相手が理解しやすい話し方や文章を書く力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常活動の2分間チャットで使いたい英単語や表現を振り返ったり、調べたりする機会を設ける。 ・単元ごとに音読チェックを行う。 ・単元ごとに確認テストを行う。 ・模範例を示しつつ、会話や英作文を練習する機会を頻繁に設ける。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない

令和5年度 府中市立府中第七中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・古典分野を含めた国語の知識を増やす。 ・意見と根拠、情報と情報の関係性の理解力向上。 ・自分の思いや考えを的確に伝えることができるような作文能力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとの知識定着の確認を定期テストとは別で行う。 ・読解だけでなく、作文でも指導する。 ・対話による交流を通して内容を整理し、問いに則した作文を考えさせる。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着 ・筋道を自分で考え表現するような問題に取り組もうとする力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・章末ごとに知識・技能の確認を行い、各々の習熟状況を確認できるようにする。 ・授業中に、どのように問題を解いていくか自分で考える時間を設ける、またその考えを他の生徒に伝える機会を設け表現する力を育てる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験等のまとめをレポート等で文章表現できるようにする。 ・基礎的、基本的な知識の定着。 ・観察・実験の技能の向上。 ・観察や実験の考察などの場面で思考力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の考察やまとめの文章表現を用いて練習し、工夫してレポートを作成できるようにする。 ・小テスト等の実施により、知識の定着度を確認することができるようにする。 ・観察・実験の機会をつくり、器具の使用や実験技術の向上に努める。 ・考察では段階的な設問にするなどして思考力の向上を進める。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能の向上。 ・単元の課題を設定し、意見交流を通じて、さらに自分の考えを深め、粘り強く課題解決に取り組もうとする力の向上。 ・多様な価値観を理解するとともに、自分の考えを文章等にまとめ、発信する力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習進度に応じた教材を提示するとともに、問題の解き直しによる反復学習に取り組みさせる。 ・学習内容と関連付けた振り返りを工夫する。 ・400字程度で自分の考えをまとめ、新聞投稿に挑戦させる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能の向上。 ・音楽に対する感性や曲にふさわしい表現力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、記入する振り返りシートで学習状況を把握し、目標を達成できていない部分を次回の授業に取り入れて復習していく授業にする。 ・音楽に対して感じた自己のイメージを言葉で表し、相手に伝わる表現力について協働的に考える場面を多く設定していく。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・美術史・用具の知識・素材に適した技能の向上。 ・感性や創造力を働かせ、豊かに発想・構想する能力の向上。 ・題材に主体的に取り組む、個性を生かした表現に積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術史の理解や技法の理解では、ICT教材の活用や、参考資料を多く用意して提示する。 ・対象や事象をとらえる造形的視点の理解について、ICT教材の活用や、参考資料を多く用意して提示する。 ・制作工程に複数の流れから選択する分岐点を作り、個性を生かした表現に主体的に取り組めるようにする。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の向上。 ・身の回りの技術に関心を持たせる。 ・自分で問題を見出して課題を設定し、自ら学び主体的に判断しようとする力の向上。 ・材料に適した加工法を身につけ、丁寧な製作品を完成させる力の向上。 ・双方向通信とプログラミングの向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域の要点をまとめたプリントでノートを完成させ、学んだことの振り返りがしやすいように工夫する。 ・各領域で学んだ基礎知識を生かして、作品を完成させ達成感と興味関心を身に付けさせる。 ・ICT教材の活用で双方向通信の仕組みやプログラミング技能の基礎を身に付けさせる。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識の向上。 ・学習内容を実生活に活かせるよう自ら学び主体的に判断しようとする力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使い毎時間に前回授業内容の小テストを行う。その時間内に結果を確認させることで自分が授業内容をどれくらい理解できているかを知らせることで学習内容の定着を図る。 ・間取り作成、被服実習等の実習を通して学習内容がどのように生活に活かされているのかを体験させる。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで学ぼうとする態度の育成。 ・男女共習での活動の活性化。 ・運動量の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に流れを説明したら、生徒自らの活動の場面を意図的に増やしていく。 ・意図的にグルーピングを男女混合にして、お互いの良さを表現できる授業構成にしていく。 ・単元ごとに補強運動を変更して運動量を確保する。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着。 ・会話活動において使える語彙や表現を増やす。 ・英語らしい発音や抑揚を身に付ける。 ・相手が理解しやすい文章を書く力を身に付ける。 ・まとまった英文を読み、内容を理解する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに確認テストを行い、知識・技能の定着度を確認できるようにする。 ・帯活動のペアトークで、使いたい英単語や表現を振り返る機会を設ける。 ・単元ごとに教科書の音読チェックを行う。 ・模範例を示し、英作文を練習する機会を頻繁に設ける。 ・帯活動で速読、多読教材を使い、文の要点を読み取る活動を行う。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない